

日程：平成 30 年 8 月 2 日～8 月 3 日

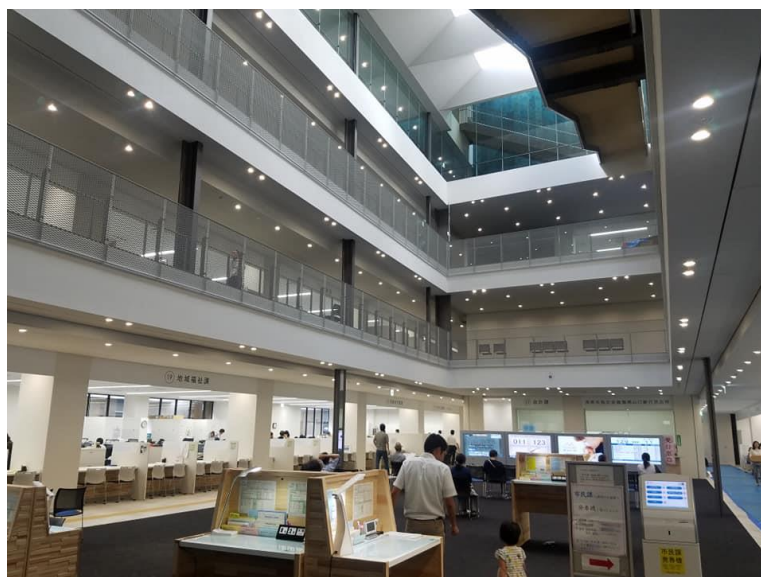
1 日目

場所：山口県周南市

目的：新庁舎建替えの経緯と課題について

<概要>

周南市は、2003 年（平成 15 年）4 月に徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町の 2 市 2 町が新設合併し発足した。市名は、2001 年（平成 13 年）、当時の 3 市 2 町（徳山市、下松市、新南陽市、熊毛町、鹿野町）合併協議会において決定したものを、下松市が合併協議から離脱した後に設立された、2 市 2 町合併協議会が引き継いだもの。新市名の案は、当時の 3 市 2 町の住民からの公募で選ばれた。「周南」とは周防国の南部という意味で（方角地名）、山口県の瀬戸内海沿岸の広い地域を指す名称（広域地名）として使用されてきた。隣接している自治体は、山口市、下松市、光市、防府市、岩国市で人口は 2018 年 4 月現在 141,609 人である。



旧庁舎の課題と新庁舎建設の必要性を

- ・老朽化による各設備、耐震性の問題
- ・増設を繰り返した経緯からバリアフリーの実現が極めて困難
- ・市民利用の多い窓口部門を一階にするも待合室の確保ができない
- ・本庁舎の規模の不足から本庁部局の分散配置をしている為、わかりにくいうえに来庁者や職員の移動負担が大きい

などの課題から、安心安全でわかりやすく使いやすい庁舎建設の必要性があるとし、様々な検討経緯を経て新庁舎着工に至っている



新庁舎の概要は、

- ・ 全ての人にわかりやすく、利用しやすい、人にやさしい庁舎
- ・ 安心、安全の拠点として市民の暮らしを守る庁舎
- ・ 市民協働の拠点として親しみやすく、誇りが持てる庁舎
- ・ 賑わいを創出し、まちに活力を与える庁舎
- ・ 行政サービスを機能的・効率的に提供できる庁舎
- ・ 地球環境にやさしい環境配置型庁舎

予算（解体費、基本計画策定費用等含む）は

・ 概算事業費 約 110 億円（内訳：国庫補助金約 3 億円・合併特例債約 76 億円・上下水道事業負担金約 9 億円・庁舎建設基金繰入金約 20 億円・一般財源約 2 億円）である。
本市でもこのあたりが議論になりそうだ



2 日目

場所：福岡県春日市

視察内容：「西鉄天神大牟田線連続立体交差事業及び春日原駅周辺総合整備事業」

【概要】

福岡市の南東に隣接しており、福岡都市圏の一角を成している。市域から福岡市の中心市街地までは 10km 程度の距離であり、福岡市の発展に伴いベッドタウンとして都市化が進んだ。人口密度は福岡県で最も高く、いわゆる首都圏、近畿圏の都市を除けば那覇市に次いで第 2 位である。人口は福岡市・北九州市・久留米市・飯塚市・大牟田市に次ぎ県内 6 位であり、10 万人を超えている。

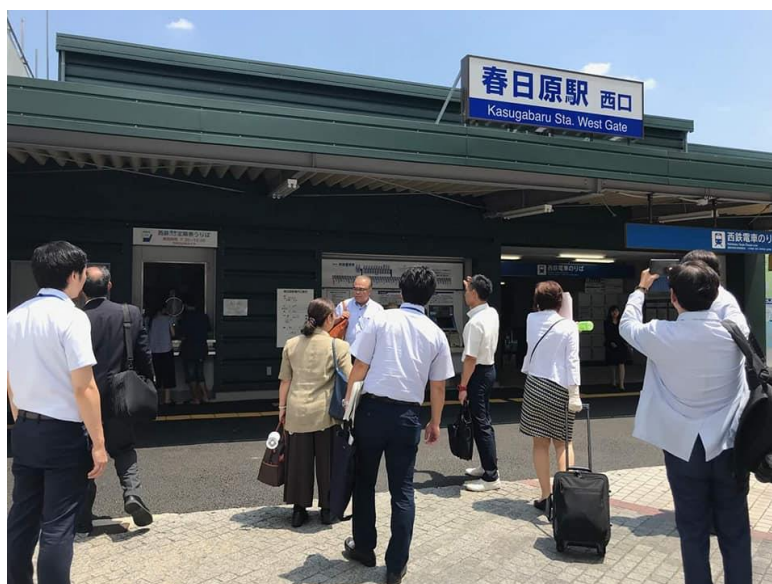


事業区間約 3.3 k m 内には 1 2 箇所の踏切があり、それらの踏切遮断時間は 1 日当たり概ね 7 ～ 8 時間、また、ピーク時は 1 時間当たり概ね 3 5 ～ 4 0 分間（平成 21 年調査）となっていたため、慢性的に交通渋滞が発生しやすい状況となっていた。

この立体交差化の事業により、既存道路 1 2 箇所において踏切を除却、交差道路を 7 箇所新設し、合計 1 9 箇所において道路と鉄道を立体交差化した。



この区間の北側に隣接して福岡市においても、福岡市内約 1.9 k m 区間で「雑餉隈駅付近連続立体交差事業」が実施されており、合わせて約 5.2 k m 区間の鉄道施設が同時に高架化されることとなる。



（春日原駅）平成 3 0 年 2 月 2 4 日に開業した東西仮駅舎です。

以前の駅は橋上駅（線路上に駅舎がある駅）であったため、線路上の解体作業については夜間に行うことも多く、夜間作業は、最終電車通過後のき電停止から始発電車運行の停電解除までの3時間、という限られた短い時間の中で慎重に施工が行われています。



事業効果として

1. 道路交通の円滑化

踏切が無くなるため、踏切遮断による交通渋滞や踏切事故が解消。

2. 沿線地域の環境改善

踏切警報音が無くなり、強固な高架橋を造ることにより、騒音・振動が軽減。

3. 高架下空間の活用

鉄道の高架下空間の一部には駐輪場などの公共・公益施設も整備。

4. 交通連結機能の強化

駅前広場整備事業との一体的な実施により駅周辺における乗り換えの利便性や快適性が向上。

を掲げている。本市でも多くの市民が高架化を希望する長岡京市駅前である。